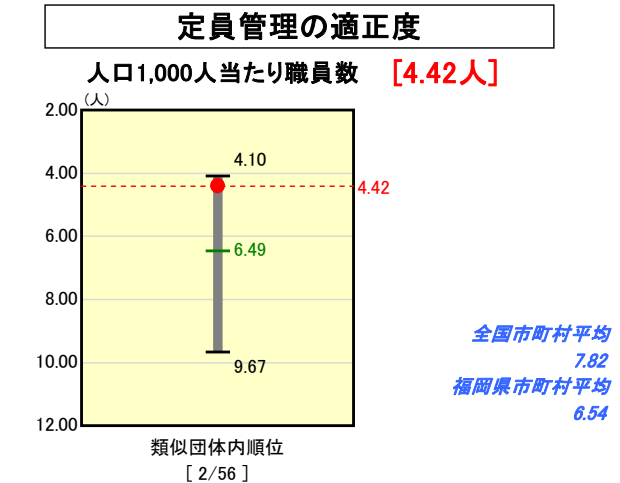
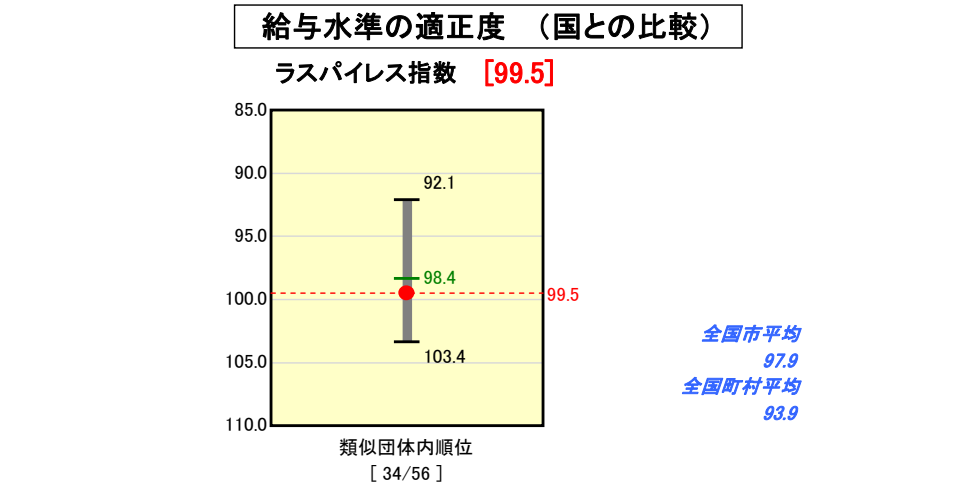
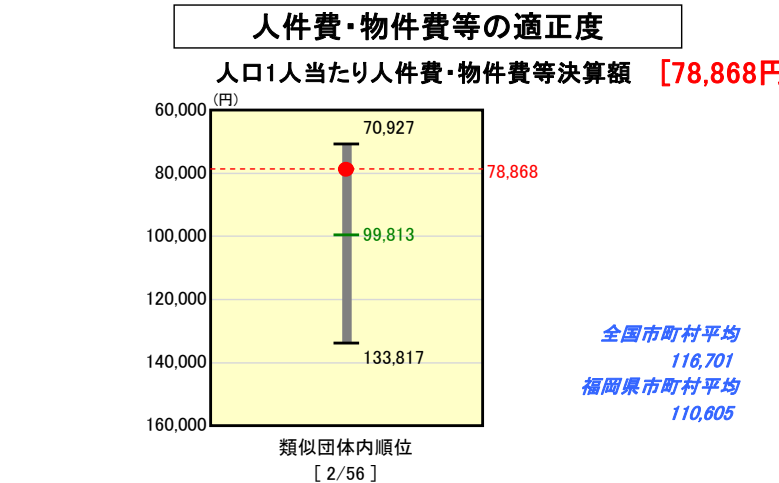
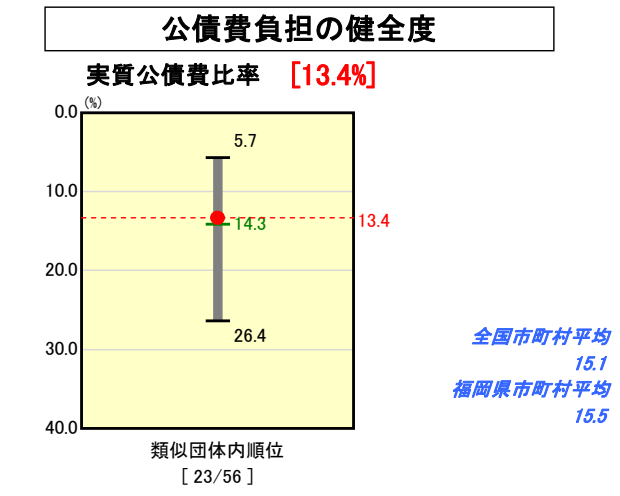
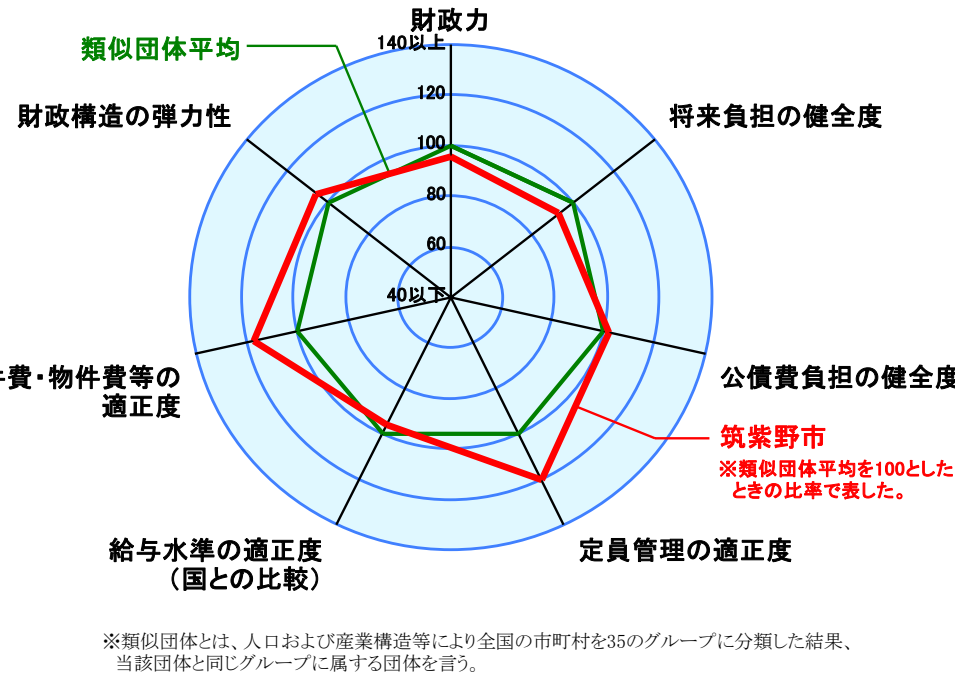
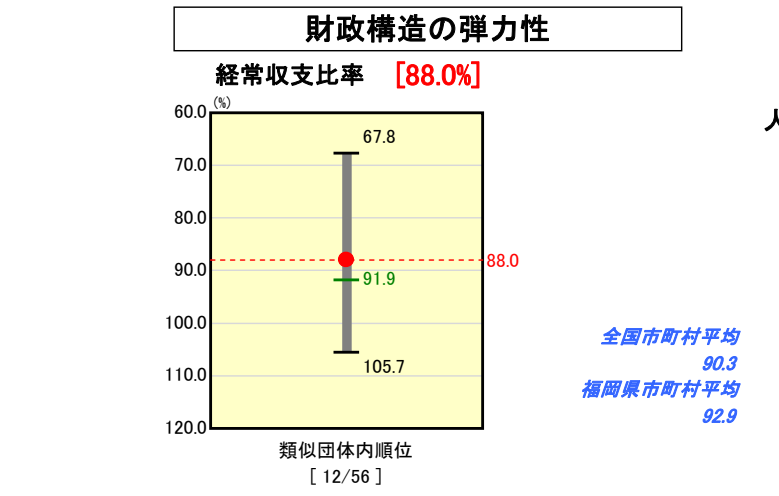
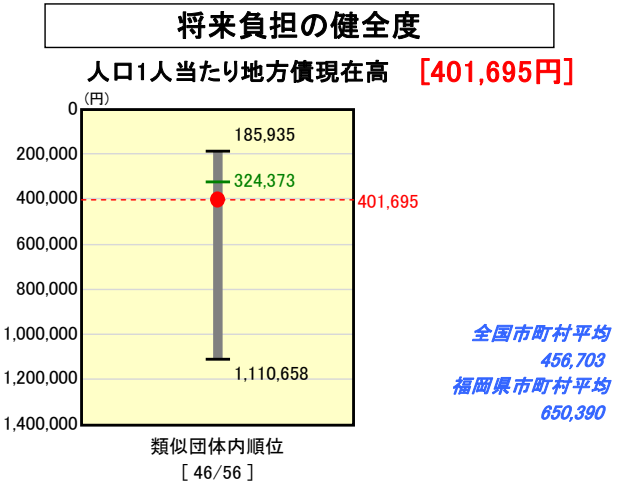
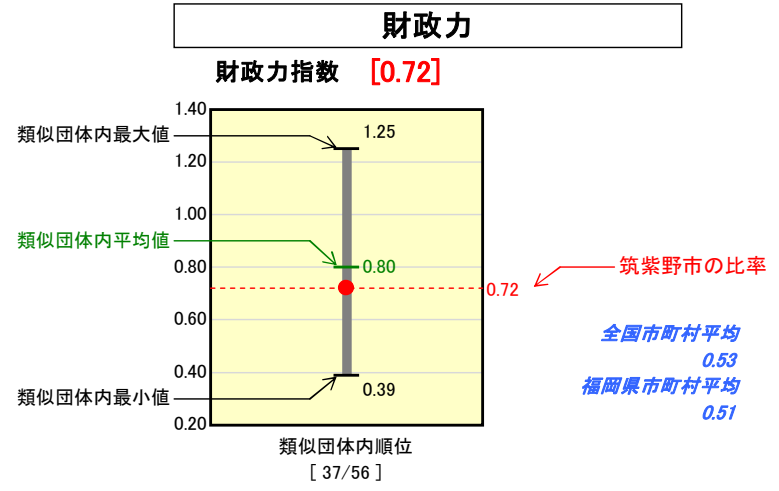


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

福岡県 筑紫野市

人口	98,378人	(H19.3.31現在)
面積	87.78	km ²
歳入総額	27,793,738	千円
歳出総額	25,821,437	千円
実質収支	1,813,824	千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

○財政力: 財政力指数は5年間連続の伸びとなっている。この主な要因としては、景気の回復に伴う法人市民税の増収等が考えられる。今後は、収納対策の尚一層の努力が求められている。

○財政構造の弾力性: 経常収支比率は昨年を2ポイント下回っている。この主な要因としては、前年度において、財政健全化計画に基づき19億円の繰上償還を行ったこと、公債費が一定程度減少していることに加え、職員の給与カット(特別職10%、管理職手当の率を2%)、あるいは、職員の時間外手当を縮減したこと(週2日ノ一残業デイの設定)によって、人件費が前年度比で14百万円減額したこと、物件費が前年度比で171百万円したこと等が考えられる。今後は事務事業の見直しを進めて、さらに弾力性のある予算を目指していく。

○人件費・物件費等の適正度: 人口1人当たり人件費・物件費等決算額は全国市町村平均と比べて小さくなっており、類似団体内順位は2位となっている。また、昨年度に比べ、3,387円減額している。これは、平成17年度から実施している財政健全化計画に基づき、予算を縮減し、必要最小限の予算執行に努めているため。今後も不用、不急な事業を見直し、現状の維持に努めていきたい。

○将来負担の健全度: 人口1人当たり地方債現在高は、401,695円であるが、昨年と比較すると17,795円の減額を達成した。これは、公共事業の見直し・縮減により、新規市債の発行額(17億8百万円)を縮減したことによるもの。本市は、平成に入って大型事業を行ってきたことにより近隣市町村と比較し、市債現在高が多いことが課題となっており、後世への負担を少しでも軽減するよう、今後の実施事業についても事前の評価により十分な検討を行っていく。

○公債費負担の健全度: 実質公債費比率は類似団体と比較すると0.9ポイント下回っている。健全財政の維持を図るため事務事業の見直しを行っているが、本市が加入する一部事務組合(筑紫野・小郡・基山清掃施設組合)において、平成19年度に、ごみ処理施設が新設され、今後、当該組合に対する負担金が増加することから、指数の悪化が想定される。このため普通会計における地方債発行額の上限を8億円とすることで、将来負担を軽減するよう努めている。

○定員管理の適正度: 人口1人当たり職員数について、全国平均が7.82人に対し、本市は4.42人と小さくなっている。また、類似団体内順位も2位となっている。この主な要因としては、事務事業のアウトソーシングにより経費の削減を図ることで定員の削減に努めてきたため。今後は、年齢構成の是正を図りながら定員適正化計画を進めていく。

○給与水準の適正度: 類似団体の平均を上回っている。人事評価システムを導入し、給与の適正化に努力していく。